

1. 研究課題名：

CMIP5 マルチモデルデータを用いたアジア域気候の
将来変化予測に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：

高藪 縁（東京大学 大気海洋研究所）



3. 研究実施期間：平成 24～26 年度

4. 研究の趣旨・概要

日本は現在、東日本大震災からの復興、経済復興などの大きな課題を抱えている。また、タイの洪水の影響に代表されるように、日本の気候のみならずアジアの様々な地域の気候変化が日本社会・経済に直接的な影響をもつことが顕在化した。従って地球温暖化による気候変動に対してより一層的確な対策をとる必要がある。そのためには、今後の温暖化の進行に伴ってどのような現象が起こるかについて、できる限り精確な情報が提供されなければならない。一方、IPCC 第 5 次評価報告書（AR5）のため、世界のより高度化した気候モデル実験結果が第 5 期結合モデル相互比較実験（CMIP5）の下に現在集約され公開され始めた。温暖化に関する国際的議論も今後 CMIP5 や AR5 が新しい国際標準となる。

そこで本研究課題では、最新の CMIP5 マルチモデルデータと最新の観測データとを利用し、地球温暖化に伴って日本の四季およびアジア域の様々な気象がいかに変化するかを調査研究し、成果を分かりやすく発表することを目指す。特に日本の社会生活に直接的な影響があるアジア域の雲・降水に関わる現象に焦点を当てる。

5. 研究項目及び実施体制

- ① アジアの四季に強い降水をもたらす大規模気候場の解明とその将来変化についての研究（東京大学）
- ② アジア域気候とこれに関連する陸面・海面状態の将来変化の研究（気象庁気象研究所）
- ③ ダウンスケーリング研究のための CMIP5 マルチモデルにおけるアジアモンスーン気候再現性と将来変化の研究（筑波大学）
- ④ 熱帯域現象が東アジアの降水活動に与える影響の解明とその将来変化の研究
（(独)海洋研究開発機構 熱帯気候変動研究プログラム）
- ⑤ 対流圏一成層圏循環場とアジア気候の将来変化に関する研究
（(独)海洋研究開発機構 地球温暖化予測研究プログラム）

